

平成 27 年度第 2 回 横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会会議録	
日時	平成 27 年 9 月 17 日（木）午後 2 時から午後 4 時まで
開催場所	山内図書館 集会室
出席者	延命委員長、荻原委員、藤崎委員、前田委員、渡辺委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者 1 人）
議題	1 平成 26 年度山内図書館指定管理者セルフモニタリング評価報告 2 視察 3 平成 26 年度山内図書館指定管理者管理業務の評価に関する事業者へのヒアリング
議事	1 平成 26 年度山内図書館指定管理者セルフモニタリング評価報告 ・指定管理事業者によるセルフモニタリング評価報告。 2 視察（案内及び説明は指定管理事業者） ・山内地区センター施設設備 ・山内図書館 3 平成26年度山内図書館指定管理者管理業務の評価に関する事業者へのヒアリング （A委員）法令、要綱、要領、手順書に沿って業務が遂行されているか。 （事業者）法令、要綱、要領、手順書に沿って業務を遂行した。法令、要綱、要領、手順書は常置し、職員がすぐ参照できるようにしている。業務を遂行する中で疑問が生じた場合は、必ず要綱、要領、手順書に立ち返っている。各担当の作業場所やカウンターにも手順書の関連部分を整備し、常に確認しながら業務を行っている。 （A委員）26年度は個人情報漏えいの事例はなかったとのことだが、ヒヤリハットはあったか。 （事業者）ケースに入れて貸し出す場合に予約連絡票の抜きもれが発生し、ご本人に予約連絡票を渡してしまった事例が数件あった。板をはさんで目立つ形に工夫するなど、その都度改善した。 （A委員）各担当の業務は円滑に遂行されているか。 （事業者）前年度の担当をそのまま継続しており、業務を円滑に遂行できた。担当業務に関連する研修に積極的に参加し、スキルアップを図った。 （A委員）図書館の利用が減少傾向にあるが、事業者としてはどのように捉えているか。また、利用を伸ばす取り組みを行っているか。 （事業者）貸出冊数は2011年から全国的に減少している。山内図書館で実施した利用者満足度調査では「蔵書が少ない、評判の新刊書が回ってこない、本が古い」というご意見をいただいている。山内図書館では、各種展示により書架に眠る本の利用を掘り起したり、自主企画事業や新規事業（託児サービス、朝市等）により新規利用者の獲得を目指した。また、青葉区役所との協働により図書館をPRし、接遇やレファレンス力の向上をはかるなど、利用を伸ばすための取り組みを行っている。

(A委員) 児童書の購入冊数が増加している理由は何か。

(事業者) 平成26年4月に読書条例が施行され、読書活動推進のための予算が加算されたため、購入冊数が増加した。

(D委員) 平日夜間の開館を市内の図書館で先行的に行っているが、昼間と比べて利用の違いはあるか。

(事業者) 利用は夜間よりは昼間が多い。夜間に限ると、水曜日が多い印象。教職員が水曜日に多く来館するためと考えている。

(B委員) 土日の開館を延長して欲しいなどの要望はあるか。また、開館時間の延長は事業者が決められるのか。

(事業者) 土日の開館時間を延長してほしいというご意見はいただいている。開館時間は市との協議事項だが、図書館システムが稼働している時間に限られる。

(B委員) 寄贈図書の受け入れは、持ち込まれたものを受け入れているのか。

(事業者) 図書館に持ち込んでいただいたものを寄贈として受け入れている。受け入れた寄贈図書は山内図書館の蔵書として登録するが、本そのものは横浜市全体の予約ネットワークに乗るため、必ずしも山内図書館の利用者が借りるとは限らない。

(A委員) レファレンスサービス充実のためにどのような工夫をしているか。利用者のニーズの把握や分析を行っているか。また、どのようなツールを整備しているか。

(事業者) 利用者が気軽に相談しやすい雰囲気を中心掛け、積極的にレファレンス専用デスクにご案内している。レファレンス事例を職員で共有し、難しい事例は複数人で対応している。また、郷土のレファレンスでよく聞かれる事例はホームページで関連資料の紹介をしている。商用データベースや国立国会図書館デジタルコレクションの利用が多いため、職員研修を行いスキルアップを図っている。

(A委員) 学校連携事業はどのような取組を行ったか。学校司書や教職員等への支援や、特徴的な取り組みを中心に伺いたい。

(事業者) 年度の初めに学校向けプログラムを校長会や学校図書館教育研究会で説明した。同時にアンケートを実施し、各校の状況や要望を把握し、計画的に支援した。具体的には、「学校図書館の選書に役立つ本の展示」、児童の読書関連作品の展示、学校図書館環境整備・読み聞かせ・修理講座の開催等。

(A委員) 読書条例が施行され、「青葉区民読書活動推進目標」が策定されたが、関係機関とはどのような連携をしたか。

(事業者) 25年度は準備の年度で、26年度は本格始動の年度になった。青葉区の読書活動推進のための事務局に参加し、読書活動目標の素案をまとめ、策定に協力した。また、読書活動関連事業を開催し、青葉区の読書活動推進に貢献した。

(A委員) 図書取次サービスの安定的な運用を行うため、どんな取組を行っているか。

(事業者) 図書取次担当連絡会の開催や搬送スタッフとの連携強化等に努めた。

(A委員) ホームページのアクセス件数を伸ばすために工夫をしているか。

(事業者) 毎年ホームページの見直しを行っている。これまでにトップページのデザイン変更、キッズページ・学校支援ページ・郷土カルタなどのコンテンツの追加を行

った。スマートフォン向けのホームページも設置している。さらに、ブログ更新時やツイッターでの情報発信の際には、ホームページのリンクを貼るなど、ホームページへ誘導するように心がけている。

(D委員) 来館しなくても見られるデジタル資料はあるのか。また、ホームページの人気のあるページなど、アクセスを分析しているか。

(事業者) 歴史散策コースの案内や青葉区の写真データベースは館内用のipadでもホームページでも閲覧できる環境を整えている。郷土の紙芝居については、著作権上、館内のみでの閲覧にしている。ホームページの各ページのアクセス件数はカウントしていない。

(B委員) 学校図書館との連携について、「学校図書館の選書に役立つ本の展示」や交流会とはどのようなものか。

(事業者) 学校図書館が本を購入するときに参考になるような展示をしている。横浜市の図書館の児童図書を選定で、評価が高いものを中心に全館から取り寄せて3日間展示している。期間中は学校連携担当が常に滞在し、ご案内や相談を受けている。学校司書の配置が始まってからは、学校司書の来場が多い。交流会は、小学校と中学校の学校司書から事例報告をしてもらい、学校司書と学校図書館ボランティアの情報共有の場としている。

(A委員) 児童対象の自主企画事業を増やした狙いは何か。実施回数の増加率と比べて参加者数が増加していない理由は何か。

(事業者) 児童対象の実施回数が増えたのは、児童のテーマ展示を絵本ジャンルの他に、物語・知識の本ジャンルを新設したため。その他の事業は前年度並みに実施している。展示については参加者数を算出していないため、前年度と比べて参加者数が微増となっている。

(A委員) 有料宅配の利用件数・貸出冊数が減少しているが原因は何か。

(事業者) 宅配の利用頻度の高い利用者が、来館利用に切り替わったため減少した。

(A委員) 「ビブリオバトル」について実施状況や今後の方向性について聞きたい。

(事業者) 平成26年度はワークショップ型とステージ型の2回、ビブリオバトルを開催した。今後は、青葉区内にビブリオバトルを普及させる活動を展開していく。

(A委員) 出版社と協力した事業があったが、どのような方法で行っているのか。

(事業者) 出版社から情報をもらうこともあれば、こちらから提案して依頼する場合もある。平成26年度は①「バムとケロ複製画展」(協力:文溪堂)、②トリックアート工作会・展示(協力:あかね書房)、③小学生のための調べ方講座(協力:ポプラ社)、④絵本のカバーでバッグづくり(協力:好学社)、⑤作家・柚木麻子氏講演会(協力:双葉社)などを実施した。

(A委員) 廃棄物排出量と水道使用量が増加傾向にあるようだが、原因と対策はあるか。

(事業者) 電化製品が耐用年数を超えて廃棄したため、廃棄物排出量が増加した。また、指定管理最終年度だったため、書庫、事務室内を整理したため廃棄物が増加した。水道使用量については、水道メーターが建物に1つしかなく、図書館単独の使用料を

	<p>把握するのが難しい状況。夏場に使用料が増加しているため、主に冷却塔の補給水量と考えられる。対策としては、27年度は冷水の温度を26年度より高く設定している。</p> <p>(A委員) 指定管理期間5年間の最終年度だったが、特に意識して実施したことはあるか。</p> <p>(事業者) 特に資料管理と環境整備に力を入れた。管理運営体制や事業内容の見直しも行った。書庫内の整理・整頓も行い、自主企画事業で使用したパネル等を次に使えるよう、再利用可能な状態にした。</p> <p>(A委員) 指定管理期間5年間が終わったが、事業者としてはどのように感じているか、5年間の振り返りをうかがいたい。</p> <p>(事業者) 横浜市立図書館18館のうちの1館としてははじめはやりがいを感じていたが、今、5年を振り返って感じているのは手ごたえである。山内図書館のミッションは「18館の中の1館としての運営」、「民間ノウハウを発揮した運営」の2つ。そのミッションを果たすべく、5年間、PDCAを繰り返し取り組んできた。</p> <p>1年目は18館のうちの1館としてサービスを継承することで精一杯だった。2年目は東日本大震災があり、期待されている民間ノウハウをなかなか発揮することができず苦しんだ時期だった。3年目は開館35周年記念事業を行い、東急電鉄との連携企画やスタンプラリーの実施等、民間ノウハウを発揮することができ、4年目には利用者アンケートのご意見をもとに、館内サインのリニューアルを行った。最終年度は書店ノウハウを活かしたビブリオバトルの開催や出版社との連携による複製画展を行った。</p> <p>5年間の成果として、学校連携担当者による学校図書館の支援、オリジナルホームページのアクセス件数や宅配サービスの増加、おはなしまつりの認知度向上、利用者アンケートの実施などが挙げられる。さらに、地域のボランティアや活動団体との信頼関係が築けたことも大きな成果と感じている。今後も、有隣堂グループが山内図書館を盛り上げていくことができると確信している。</p>
<p>資料・ 特記事項</p>	<p>1 資料</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成 27 年第 1 回横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会会議録 (案) (2) 平成 26 年度指定管理者セルフモニタリング評価書 (3) 平成 26 年度事業者ヒアリング項目 (4) 平成 26 年度横浜市山内図書館活動実績 (修正版) (5) ヒアリング参考資料 <p>2 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成 27 年第 1 回会議の議事録は承認